

尚綱大学・尚綱大学短期大学部における教員養成について

I. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

(教育職員免許法施行規則第22条の6第1号関係)

[尚綱大学 文化言語学部]

1. 目標

人間形成における文化と言語の重要性を自覚し、文化と言語の担い手として自ら模範を示すことのできる教員、そして多様化する文化・社会に対応した教育を行うために必要な資質を備えた教員の育成を目指して、特に下記の点に留意して教員養成を行っている。

- ・主体的に学び、自分の考えを自分の言葉でわかりやすく表現する力を身につけさせる
- ・様々な人々と交流できる思いやりと人権感覚を身につけさせる
- ・伝統的な文化や言葉を大切にしながら、協力して新たな文化の創造に取り組む姿勢を身につけさせる

2. 目標を達成するための計画

①教育実習

- ・必要な実習期間について

中学校一種免許状のみ取得の者、中学校一種免許状及び高等学校一種免許状取得の者は3週間、高等学校一種免許状のみ取得の者は2週間として、4年次で行う。

- ・実習校との関係について

教育実習は、中学、高校ともに、併設校、教育実習連絡協議会(熊本市教育委員会)が指定する実習校、母校、その他の実習協力校で実習を行っている。実習期間中に担当教員が必ず実習校を訪問して授業を参観し指導している。実習校における指導を踏まえ、教育実習後において専任教員による指導も併せて行っている。

- ・「教育実習」の履修について

免許取得のためには、所定の教科に関する科目、教職に関する科目などの履修が必須となる。

履修生は、初年次より、「履修カルテ」をもとに教師に求められる力への意識を高め、教職課程を計画的に履修することが求められている。なお、そのうち、「教育実習」の履修については、2年修了時、3年修了時にそれぞれ教職科目で2つ以上未履修がある場合は、教育実習内諾手続き、教育実習を行うことができない。詳細は、文化言語学部の学生便覧に記載のうえ、「教職課程の手引き」を作成し指導している。

②教職専門科目の配置

科目及び配当学年		概要
1年次	教育原理(教育課程を含む) 教職論 教育方法論 特別支援教育概論	1・2年次には、教育の理念や歴史、教職の意義や役割、教育制度のほか各教科の基礎的な教育法、また、人間の心の理解に関する科目など教職の基本となるものを配置している。
2年次	教育制度 道徳教育の研究 生涯発達心理学 特別活動の研究 臨床心理学 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ 書道科教育法Ⅰ	

3 年 次	教育心理学 生徒指導論 教育相談 (カウンセリングを含む。) 教育実践研究 国語科教育法Ⅲ・Ⅳ 書道科教育法Ⅱ	3年次には、教育心理学や教育相談、生徒指導、教育実践研究など教育実践と関連する科目を配置している。
4 年 次	教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	4年次では、教育実習を行い、その後教職実践演習で自己の課題を自覚した上で、教員として必要な資質能力などが統合されたかを確認する。

③担当教員の配置

教職科目のほとんどを専任教員で担当しているが、学校現場での経験豊富な外部講師に「特別支援教育概論」、「特別活動の研究」、「生徒指導論」、「臨床心理学」などをお願いしている。

[尚綱大学 生活科学部]

1. 目標

健康的な社会の構築に貢献するため、国民の健康課題に対応できる管理栄養士能力を基盤に持った栄養教諭、国際的視野から将来の食生活や食料問題について指導できる栄養教諭を育成する。

2. 目標を達成するための計画

①栄養教育実習

・必要な実習期間について

3年次に給食管理の臨地実習を1週間行い、4年次に教育実習を1週間行う。

・実習校との関係について

教育実習は、母校や実習連絡協議会（熊本市）が指定する実習校、実習協力校で実習を行っている。実習期間が短いので、事前訪問に数回伺い、実習担当の栄養教諭と打ち合わせを行い、給食時間の指導や研究授業の準備を行うこととしている。また、実習期間中に担当教員が必ず実習校を訪問している。

・「栄養教育実習」の履修について

3年次末までに教養教育科目及び専門科目について、計90単位以上を修得し、原則として開講された教職に関する専門科目を全て修得した者で、かつ教授会において成績等の資料に基づく評価を受け、履修を許可された者だけが履修することができることとしている。

②教職専門科目の配置

科目及び配当学年	概 要	
1 年 次	教育原理（教育課程を含む） 教職論 教育方法論	1年次には、教育の理念や教育課程、また教職の意義や役割や教育方法論等に関する基礎的な理論や知識を理解するために、教職の基本となるものを配置している。
2 年 次	教育制度 道徳及び特別活動の研究 生徒指導論（進路指導を含む） 教育心理学	2年次には、教育制度や生徒指導の基本的知識を学ぶとともに、道徳教育や教育心理学を学び、実践的な演習も取り入れ、教育実践と関連するものを配置している。
3 年 次	学校栄養指導論 食教育実践論 教育相談	3年次では、他の専門分野の学びとも関連付けながら、栄養教諭の役割や教科等における食に関する指導及び個別的な相談指導について理解を深め、指導や相談等の基本的な技術を体得できるように科目を配置している。
4 年 次	栄養教育実習 （事前事後指導を含む） 教職実践演習	4年次では、教育実習を行う。その後の教職実践演習では、自己の課題を自覚した上で、教員として必要な資質能力が統合されたか確認する。

③担当教員の配置

教職科目のほとんどを専任教員で担当しているが、特に「食教育実践論」や「栄養教育実習」は、栄養教諭経験の教員が担当している。

[尚綱大学短期大学部 幼児教育学科]

1. 目標

未来をになう子どもの生活、遊び、発達、健康などについて基礎的総合的な理解を深めるとともに、健やかで豊かな生活、遊びを導く実践的な保育者としての技量を養う。また、保護者や子どもに信頼され、慕われる人間的魅力を備え、保育の現場で起こりうるさまざまな問題に対応できる実践力をもつ保育者を育成する。

2. 目標を達成するための計画

① 実習

- ・幼稚園教諭二種免許状取得のための実習は本学規定により4週間（160時間）行われる。その他、保育士資格取得のための保育現場での実習が6週間あり、計10週間の実習が行われる。
- ・実習先は、短期大学部附属認定こども園、学外の幼稚園であり、それぞれ2週間の実習を行っている。このほか保育士資格のための実習として学外の保育園、児童福祉施設等で6週間の実習を行っている。
- ・短期大学部附属認定こども園での実習はA（観察実習及び参加実習）、B（参加及び責任実習）の2段階において行われ、それぞれ学外幼稚園実習および学外保育園実習にむけての基礎知識、実践力を養う機会として実施されている。
- ・教育実習を履修するためには、1年次の成績が良好であることを条件としており、特に教員免許状取得に関する科目の単位取得状況を重視している。

② 教職専門科目の配置

科目及び配当学年		概要
1年次	教育原理 発達心理学 教育課程論 保育内容研究Ⅱ－人間関係 保育内容研究Ⅳ－言葉A 保育内容研究Ⅳ－言葉B 保育内容研究Ⅵ－造形表現A 教育実習（附属A）	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次においては、教育原理や発達心理学、教育課程論など、教職の基礎となる科目を配置するとともに、後期に行われる附属こども園での教育実習に適應できるよう、特に基本的な幼児教育の知識および技能を高めることのできる科目を配置している。
2年次	教職研究 教育方法論 保育内容研究Ⅰ－健康 保育内容研究Ⅲ－環境 保育内容研究Ⅴ－音楽表現A 保育内容研究Ⅴ－音楽表現B 保育内容研究Ⅵ－造形表現B 幼児の理解(教育相談を含む。) 教育実習（附属B・学外） 教育実習指導 保育・教職実践演習	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次においては、すべての実習（教育実習、保育実習）での学びを深め、実習で経験したことを整理し系統づけて把握できるようにするため、保育現場及び子どもの理解を進めるための科目や、高度な保育の知識・技能を習得するための科目（保育の表現技術等）を中心に配置している。 ・2年次後期の「保育・教職実践演習」では、2年間の免許・資格に関係するすべて学修を統合し、保育者としての資質を高め、保育現場で実践力を発揮することのできる保育者の養成を目指している。

③ 担当教員の配置

- ・教職に関する科目及び教科に関する科目のそれぞれに必要な数である5名の教員を配置している。それらを含めた専任教員は音楽2名、造形（図工）2名、保健・体育2名、保育教育関係5名、社会福祉・児童福祉1名、心理学2名、外国語1名の15名で構成される。加えて現場での経験が豊富な学外講師を配置し、特に音楽（ピアノ）のレッスン講師は重視しており、学生一人一人に個人レッスンを行い、技能を向上させることができるよう多くの教員を配置している。

II. 教員の養成に係る組織及び教員の数に関すること

（教育職員免許法施行規則第22条の6第2号関係）

1. 組織について

（1）教員養成課程を有する学部学科及び免許状の種類について

大学の名称	学部・学科等の名称等	認定を受けている免許状の種類
尚 綱 大 学	文化言語学部文化言語学科	中学校教諭一種免許状「国語」 高等学校教諭一種免許状「国語」 高等学校教諭一種免許状「書道」
尚 綱 大 学	生活科学部栄養科学科	栄養教諭一種免許状
尚綱大学短期大学部	幼 児 教 育 学 科	幼稚園教諭二種免許状

（2）教職課程専門委員会

教職課程専門委員会は、文化言語学部、生活科学部、短期大学部幼児教育学科及び関係学部長、学科の教務委員、教職科目担当者によって構成し、定期的（毎月1回程度）に委員会を開催。

（3）熊本地区大学教育実習連絡協議会

熊本市教育委員会、熊本市立中学校校長会、教職課程を有する熊本地区8大学教によって構成し、教育実習を円滑に行うために共通理解を図っている。

2. 教員養成課程における教員の数について

大学の名称	学部・学科等の名称等	専任教員の数	専任教員以外の数
尚 綱 大 学	文化言語学部文化言語学科	9名	11名
尚 綱 大 学	生活科学部栄養科学科	5名	5名
尚綱大学短期大学部	幼 児 教 育 学 科	11名	4名

※教育職員免許法施行規則66条の6に定める科目の教員を除く。

Ⅲ. 教員の養成に係る授業科目、各教員が有する学位並びに業績に関すること

(教育職員免許法施行規則第22条の6第2号、第3号関係)

1. 尚絅大学文化言語学部文化言語学科における中学校教諭第一種免許状「国語」の取得に係る科目

(1) 教育職員免許法施行規則66条の6に定める科目区分

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
日本国憲法	宇野 文重	講義	2	必修	1
体育Ⅰ	柿原 一貴	実技	1	必修	1
体育Ⅱ	柿原 一貴	実技	1	必修	1
英語ⅠA	竹下 裕俊 柚木 繁之	演習	1	必修	1
英語ⅠB	竹下 裕俊 柚木 繁之	演習	1	必修	1
情報処理実務Ⅰ	釜賀 誠一	演習	1	必修	1
情報処理実務Ⅱ	釜賀 誠一	演習	1	必修	1

(2) 教科に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
日本語学概説	山川 仁子	講義	2	必修	1
日本語史	畠山 真一	講義	2	必修	1
音声言語	山川 仁子	講義	2	必修	1
文章表現	山本 歩	講義	2	必修	1
日本文学概論	武田 昌憲	講義	2	必修	1
日本古典文学史Ⅰ	武田 昌憲	講義	2	必修	1
日本近現代文学史Ⅰ	堀畑 真紀子	講義	2	必修	1
中国文学概説Ⅰ	福永 美佳	講義	2	必修	1
書写・書道Ⅰ	前田 頼子	実習	1	必修	1
書写・書道Ⅱ	前田 頼子	実習	1	必修	1
書写・書道概論	前田 頼子	講義	2	必修	1

(3) 教職に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
教職論	水谷 智彦	講義	2	必修	1
教育原理(教育課程を含む。)	佐澤 安廣	講義	2	必修	1
教育心理学	小沢 日美子	講義	2	必修	3
教育制度	水谷 智彦	講義	2	必修	2
国語科教育法Ⅰ	川上 知里	講義	2	必修	2
国語科教育法Ⅲ	武田 昌憲	講義	2	必修	3

国語科教育法Ⅳ	武田 昌憲	講義	2	必修	3
道徳教育の研究	佐澤 安廣	講義	2	必修	2
特別活動の研究	佐々木 公久	講義	2	必修	2
教育方法論	宮川 敏郎	講義	2	必修	1
生徒指導論（進路指導を含む。）	宮川 伊十	講義	2	必修	3
教育相談（カウンセリングを含む。）	佐々木 公久	講義	2	必修	3
教育実践研究	武田 昌憲 福永 美佳 山本 歩 水谷 智彦	講義	1	必修	3・4
教育実習Ⅰ	福永 美佳 川上 知里	実習	2	必修	4
教育実習Ⅱ	福永 美佳 川上 知里	実習	2	必修	4
教職実践演習（中・高）	武田 昌憲 小沢 日美子 水谷 智彦 久多見 健	演習	2	必修	4

(4) 教科又は教職に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
日本近現代文学史Ⅱ	多田 蔵人	講義	2	必修	2
国語科教育法Ⅱ	山本 歩	講義	2	必修	2
生涯発達心理学	小沢 日美子	講義	2	選択	2
臨床心理学	江崎 百美子	講義	2	選択	2
特別支援教育概論	古田 弘子	講義	2	選択	1

※各授業科目の授業計画については、授業科目名をクリックリンク先を参照。

※各授業担当者の学位及び業績については、授業担当者氏名をクリックリンク先を参照。

2. 尚綱大学文化言語学部文化言語学科における高等学校教諭第一種免許状「国語」の取得に係る科目

(1) 教育職員免許状施行規則66条の6に定める科目区分

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
日本国憲法	宇野 文重	講義	2	必修	1
体育Ⅰ	柿原 一貴	実技	1	必修	1
体育Ⅱ	柿原 一貴	実技	1	必修	1
英語ⅠA	竹下 裕俊 柚木 繁之	演習	1	必修	1
英語ⅠB	竹下 裕俊 柚木 繁之	演習	1	必修	1
情報処理実務Ⅰ	釜賀 誠一	演習	1	必修	1
情報処理実務Ⅱ	釜賀 誠一	演習	1	必修	1

(2) 教科に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
日本語学概説	山川 仁子	講義	2	必修	1
日本語史	畠山 真一	講義	2	必修	1
音声言語	山川 仁子	講義	2	必修	1
文章表現	山本 歩	講義	2	必修	1
日本文学概論	武田 昌憲	講義	2	必修	1
日本古典文学史Ⅰ	武田 昌憲	講義	2	必修	1
日本近現代文学史Ⅰ	堀畑 真紀子	講義	2	必修	1
日本古典文学講読Ⅰ	武田 昌憲	講義	2	選択	2
日本古典文学講読Ⅱ	武田 昌憲	講義	2	選択	2
日本近現代文学講義Ⅰ	山本 歩	講義	2	選択	2
日本近現代文学講読Ⅰ	堀畑 真紀子	講義	2	選択	2
中国文学概説Ⅰ	福永 美佳	講義	2	必修	1
漢文学講読Ⅰ	福永 美佳	講義	2	必修	2

(3) 教職に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
教職論	水谷 智彦	講義	2	必修	1
教育原理（教育課程を含む。）	佐澤 安廣	講義	2	必修	1
教育心理学	小沢 日美子	講義	2	必修	3
教育制度	水谷 智彦	講義	2	必修	2
国語科教育法Ⅰ	川上 知里	講義	2	必修	2
特別活動の研究	佐々木 公久	講義	2	必修	2

教育方法論	宮田 敏郎	講義	2	必修	1
生徒指導論（進路指導を含む。）	宮川 伊十	講義	2	必修	3
教育相談（カウンセリングを含む。）	佐々木 公久	講義	2	必修	3
教育実践研究	武田 昌憲 福永 美佳 山本 歩 水谷 智彦	講義	1	必修	3・4
教育実習Ⅱ	福永 美佳 川上 知里	実習	2	必修	4
教職実践演習（中・高）	武田 昌憲 小沢 日美子 水谷 智彦 久多見 健	演習	2	必修	4

(4) 教科又は教職に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
日本語文法	畠山 真一	講義	2	必修	2
日本近現代文学史Ⅱ	多田 蔵人	講義	2	必修	2
日本古典文学講義Ⅰ	森 正人	講義	2	選択	2
日本古典文学講義Ⅱ	武田 昌憲	講義	2	選択	3
日本古典文学史Ⅱ	武田 昌憲	講義	2	選択	1
日本近現代文学講義Ⅱ	村田 由美	講義	2	選択	3
日本近現代文学講読Ⅱ	山本 歩	講義	2	選択	2
中国文学概説Ⅱ	福永 美佳	講義	2	選択	2
漢文学講読Ⅱ	福永 美佳	講義	2	選択	2
国語科教育法Ⅱ	山本 歩	講義	2	必修	2
生涯発達心理学	小沢 日美子	講義	2	選択	2
臨床心理学	江崎 百美子	講義	2	選択	2
特別支援教育概論	古田 弘子	講義	2	選択	1

※各授業科目の授業計画については、授業科目名をクリックリンク先を参照。

※各授業担当者の学位及び業績については、授業担当者氏名をクリックリンク先を参照。

3. 尚綱大学文化言語学部文化言語学科における高等学校教諭第一種免許状「書道」の取得に係る科目

(1) 教育職員免許状施行規則66条の6に定める科目区分

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
日本国憲法	宇野 文重	講義	2	必修	1
体育Ⅰ	柿原 一貴	実技	1	必修	1
体育Ⅱ	柿原 一貴	実技	1	必修	1
英語ⅠA	竹下 裕俊 柚木 繁之	演習	1	必修	1
英語ⅠB	竹下 裕俊 柚木 繁之	演習	1	必修	1
情報処理実務Ⅰ	釜賀 誠一	演習	1	必修	1
情報処理実務Ⅱ	釜賀 誠一	演習	1	必修	1

(2) 教科に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
書写・書道Ⅰ	前田 頼子	実習	1	必修	1
書写・書道Ⅱ	前田 頼子	実習	1	必修	1
書写・書道概論	前田 頼子	講義	2	必修	1
草書法	黒田 清和	実習	1	必修	2
仮名書法	久多見 健	実習	1	必修	1
楷書法	中村 千恵	実習	1	必修	1
行書法	黒田 清和	実習	1	必修	1
隷書法	林田 俊一郎	実習	1	必修	2
篆書法	神野 雄二	実習	1	必修	2
書道史Ⅰ	林田 俊一郎	講義	2	必修	3
書論研究	林田 俊一郎	講義	2	必修	3
名跡鑑賞	林田 俊一郎	講義	2	必修	3
日本文学概論	武田 昌憲	講義	2	必修	1
中国文学概説Ⅰ	福永 美佳	講義	2	必修	1

(3) 教職に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
教職論	水谷 智彦	講義	2	必修	1
教育原理（教育課程を含む。）	佐澤 安廣	講義	2	必修	1
教育心理学	小沢 日美子	講義	2	必修	3
教育制度	水谷 智彦	講義	2	必修	2
書道科教育法Ⅰ	久多見 健	講義	2	必修	2

特別活動の研究	佐々木 公久	講義	2	必修	2
教育方法論	宮田 敏郎	講義	2	必修	1
生徒指導論（進路指導を含む。）	宮川 伊十	講義	2	必修	3
教育相談（カウンセリングを含む。）	佐々木 公久	講義	2	必修	3
教育実践研究	武田 昌憲 福永 美佳 山本 歩 水谷 智彦	講義	1	必修	3・4
教育実習Ⅱ	福永 美佳 川上 知里	実習	2	必修	4
教職実践演習（中・高）	武田 昌憲 小沢 日美子 水谷 智彦 久多見 健	演習	2	必修	4

(4) 教科又は教職に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
書学概論Ⅰ	林田 俊一郎	講義	2	必修	1
書学概論Ⅱ	中村 千恵	講義	2	必修	2
書道史Ⅱ	久多見 健	講義	2	必修	3
日本古典文学講読Ⅰ	武田 昌憲	講義	2	選択	2
日本古典文学講読Ⅱ	武田 昌憲	講義	2	選択	2
日本近現代文学講読Ⅰ	堀畑 真紀子	講義	2	選択	2
漢文学講読Ⅰ	福永 美佳	講義	2	選択	2
漢文学講読Ⅱ	福永 美佳	講義	2	選択	2
日本近現代文学史Ⅱ	多田 蔵人	講義	2	選択	2
書道科教育法Ⅱ	久多見 健	講義	2	必修	3
生涯発達心理学	小沢 日美子	講義	2	選択	2
臨床心理学	江崎 百美子	講義	2	選択	2
特別支援教育概論	古田 弘子	講義	2	選択	1

※各授業科目の授業計画については、授業科目名をクリックリンク先を参照。

※各授業担当者の学位及び業績については、授業担当者氏名をクリックリンク先を参照。

4. 尚綱大学生生活科学部栄養科学科における栄養教諭の取得に係る科目

(1) 教育職員免許状施行規則66条の6に定める科目区分

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
日本国憲法	宇野 文重	講義	2	必修	1
体育Ⅰ（実技Ⅰ）	中嶋 弘二	実技	1	必修	1
体育Ⅱ（実技Ⅱ）	中嶋 弘二	実技	1	必修	1
英語ⅠA（基礎Ⅰ）	田口 誠一 ジョシュ ノーマン	演習	1	必修	1
英語ⅠB（基礎Ⅱ）	田口 誠一 ジョシュ ノーマン	演習	1	必修	1
情報基礎	岡田 則浩	演習	1	選択	1
文書処理入門	岡田 則浩	演習	1	選択	1
表計算入門	岡田 則浩	演習	1	選択	1
プレゼンテーション入門	岡田 則浩	演習	1	選択	1

(2) 教科に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
学校栄養指導論	田中 眞知子	講義	2	必修	3
食教育実践論	川野 美智代	講義	2	必修	3

(3) 教職に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
教職論	水谷 智彦	講義	2	必修	1
教育原理（教育課程を含む）	柴田 賢一	講義	2	必修	1
教育心理学	小沢 日美子	講義	2	必修	2
教育制度	岩崎 詳二	講義	2	必修	2
道徳及び特別活動の研究	中川 敏昭	講義	2	必修	2
教育方法論	宮田 敏郎	講義	2	必修	1
生徒指導論	原野 義一	講義	2	必修	2
教育相談	原野 義一	講義	2	必修	3
栄養教育実習（事前事後指導を含む）	守田 真里子	実習	2	必修	4
教育実践演習（栄養教諭）	守田 真里子 他	講義	2	必修	4

※各授業科目の授業計画については、授業科目名をクリックリンク先を参照。

※各授業担当者の学位及び業績については、授業担当者氏名をクリックリンク先を参照。

5. 尚綱大学短期大学部幼児教育学科における幼稚園教諭第二種免許状の取得に係る科目

(1) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目区分

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
法学（日本国憲法）	宇野 文重	講義	2	必修	1
保健体育	柿原 一貴	講義	1	必修	1
体育実技 I	柿原 一貴	実技	1	必修	1
英語 I	市川 文子	演習	1	必修	1
英語 II	市川 文子	演習	1	必修	1
情報処理 A	釜賀 誠一	演習	1	必修	1
情報処理 B	釜賀 誠一	演習	1	必修	1

(2) 教科に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
国語 A	八本 藤子	演習	1	必修	1
国語 B	八本 藤子	演習	1	必修	2
音楽 I	曾田 裕司 森 みゆき	演習	1	必修	1
音楽 II	曾田 裕司 森 みゆき	演習	1	必修	1
図画工作 I	坂本 健	演習	1	必修	1
体育 I	柿原 一貴 立山 明佐子	演習	1	必修	1

(3) 教職に関する科目

授業科目名	授業担当者氏名	授業形態	単位数	必修選択区分	履修年次
教職研究	柴田 賢一	講義	2	必修	2
教育原理	柴田 賢一	講義	2	必修	1
発達心理学	小川内 哲生	講義	2	必修	1
教育課程論	片桐 真弓	講義	2	必修	1
保育内容研究 I - 健康	山崎 敬太郎	演習	1	必修	2
保育内容研究 II - 人間関係	小川内 哲生	演習	1	必修	2
保育内容研究 III - 環境	堂森 宏一	演習	1	必修	2
保育内容研究 IV - 言葉 A	北口 己津子	演習	1	必修	1
保育内容研究 V - 音楽表現 A	曾田 裕司 森 みゆき	演習	1	必修	2
保育内容研究 VI - 造形表現 A	坂本 健	演習	1	必修	1
保育内容研究 IV - 言葉 B	北口 己津子	演習	1	必修	1
保育内容研究 V - 音楽表現 B	曾田 裕司 森 みゆき	演習	1	必修	2

保育内容研究VI－造形表現B	横山 博之	演習	1	必修	2
教育方法論	緒方 宏明	講義	2	必修	2
幼児の理解（教育相談を含む。）	二子石 諒太	講義	2	必修	2
教育実習	柴田 賢一 二子石 諒太	実習	4	必修	1・2
教育実習指導	柴田 賢一 二子石 諒太	演習	1	必修	2
保育・教職実践演習（幼稚園）	柴田 賢一 片桐 真弓 二子石 諒太	演習	2	必修	2

※各授業科目の授業計画については、授業科目名をクリックリンク先を参照。

※各授業担当者の学位及び業績については、授業担当者氏名をクリックリンク先を参照。

IV. 卒業生の教員免許状の取得の状況及び卒業生の教員への就職の状況に関すること

（教育職員免許法施行規則第22条の6第4号、5号関係）

大学名/学部学科	区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
尚 綱 大 学 文化言語学部 文化言語学科	卒業者数	63	52	41	
	免 許 状 取 得 者 数	実人数	6	7	5
		中一種（国語）	5	4	5
		高一種（国語）	6	4	5
		高一種（書道）	4	2	1
	教員就職者数	4	5	1	
尚 綱 大 学 生活科学部 栄養科学科	卒業者数	69	75	77	
	免許状取得者数	9	5	8	
	教員就職者数	4	2	2	
尚 綱 大 学 合 計	卒業者数	132	127	118	
	免許状取得者数	24	15	19	
	教員就職者数	8	7	3	
尚綱大学短期大学部 幼児教育学科	卒業者数	160	154	149	
	免許状取得者数	152	145	139	
	教員就職者数	11	13	4	

V. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

(教育職員免許法施行規則第22条の6第6号関係)

[尚綱大学 文化言語学部]

1. 教職課程の履修、及び「教育実習」について

(1) 「教育実践研究」における工夫

教育実習の事前事後指導の科目として教育実践研究を配置している。授業では、4年次の教育実習を想定しての「指導案作成」及び「模擬授業」を主に行う。それとともに実際に学校等に出向いて行う「観察実習」について、事前の準備と事後の記録作成を行う。

<観察実習>の実施

教育実習に向けて、併設校で教育現場の様子、教師の仕事及び授業の指導方法について理解するために、3年次に観察実習を1日実施している。そして、観察ノートに授業の展開等で気づいたことなどを記入しながら、学校現場の1日を体験し教育実習における教師としての自覚を高め、自身の課題を明らかにしている。

(2) 「教職実践演習」における工夫

教師となって教壇に立つために求められる自己の課題について、大学4年間の学修のまとめのなかで認識できるように、履修カルテの作成を活用している。また、教育実習等の現場での学修とのつながりの中での理解を進めるために、教育実践の事例についてロール・プレイングなどを用いて、多面的で実践的な理解の進展に工夫している。

<履修カルテ>の活用法

「履修カルテ」は、教職課程に学ぶ学生が1年次から4年次までの授業について、半期ごとに自己の学修達成度を確認し、自己学修における課題を明確にし、自発的な学修を促進するために活用している。

2. 「教員採用選考対策講座」の実施

教職教養科目や専門科目について、前期・後期とも授業外で外部講師を招くなどして教職課程履修者が参加できる講座を実施し、きめ細やかな指導をしている。本講座では、教職教養科目全般や専門科目、及び論文や模擬授業、面接などについての平素の授業を補うなどの復習を兼ねているが、同時に、自発的な学習の契機としても活用されて来ている。1年次からの受講を促しており、これまでも教職課程履修生の多くが参加して来ている。

3. ボランティア活動を通じた教育実践体験の充実

これまでの学生の活動としては、教職課程を履修している学生が中心になって、熊本県教育委員会が行った「地域の寺子屋」推進事業について、「尚綱☆みんなと学び隊」として参加した小中学生等への学習支援などがある。また、熊本市学校支援ボランティアに希望した学生では、小中学校に出向いての学習活動への支援、行事への参加などを通して教育実践体験の充実を図るなどしている。

[尚綱大学 生活科学部]

1. 教職課程の履修について

(1) 「栄養教育実習」における工夫

栄養教諭の職務は、「児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる」ことである。そのため、栄養の専門性と教員としての資質を身に付けることが重要であることから、栄養教育実習の事前指導としては、栄養教諭の役割を理解させるとともに栄養管理を行う「学校給食」を生きた教材として活用し、児童生徒の発達段階を考慮した模擬授業を行うこととしている。

(2)「教職実践演習」における工夫

「教職実践演習」は、教職に関する科目の学習の総括であることから、履修カルテを活用し、自分が目指す栄養教諭像に照らしながら、教員となるに当たっての課題を自覚させ克服できるよう努めている。また、指導計画（シラバス）に当たっては次のような工夫を行っている。

①中学校との連携

併設中学校における授業参観を実施するとともに、校長先生による教育講話を実施。

②教育委員会との連携

「栄養教諭に求められる役割について」の講話を実習受け入れ先の教育委員会に依頼している。

③栄養教諭（卒業生）による講話

実際に栄養教諭として勤務している卒業生から、給食管理や衛生管理、食に関する指導の在り方、食に関するコーディネーターとして役割等についての講話の時間を設けている。

④演習活動

模擬授業、ロールプレイング、事例研究等、できるだけ自分たちで考え、話し合い、発表する活動型の授業を行うよう工夫している。特に、栄養の専門性を生かした指導につなげられるよう、本学の専任教員により、学校における事例研究や実験を取り入れた演習活動も行っている。

(3)履修カルテの活用

「履修カルテ」は、教職課程に学ぶ学生が1年次から4年次までの授業について、半期ごとに自己の学習達成度を確認し、自己学習における課題を明確にし、自発的な学習を促進するために活用している。

2. 教員採用試験対策講座

1次の筆記試験については、文化言語学部が実施する対策講座に参加したり、過去問対策を行ったりしている。また、2次の面接、論述、模擬授業等の対策については、栄養教諭経験の教員が個別にきめ細やかな指導を行っている。

【尚綱大学短期大学部 幼児教育学科】

1. 保育教職実践演習

(1)履修カルテについて

本学科は2年間で幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得が可能であり、幼稚園教諭養成のカリキュラムと保育士資格取得のためのカリキュラムをと関係づけながら、より専門性の高い保育者の養成を目指している。このようなカリキュラムの特性から幼稚園と保育士の両カリキュラムを統合した履修カルテを作成し、デュプロマポリシーに基づいたカリキュラム評価と一体化させた学習成果の測定を行っている。この履修カルテを学生と担当教員が学期ごとに学修状況を確認したうえで、次学期以降の方向付けを行うための資料として履修カルテ①②を活用している。

履修カルテ①では、履修科目の得点により学生それぞれが自らの学修上の傾向や特徴を一目で把握できるようグラフ化している。学生は学期ごとに確認を行い、それぞれの強みや弱点についての省察を行い、その後の目標を立てていくために履修カルテを活用している。

履修カルテ②では、カルテ①の項目について、これまでの学修による学生自身の実感として、どの程度の力がついたと感じるかを5段階で自己評価するよう求めている。

(2)保育・教職実践演習の指導計画（シラバス）について

学生全体を10～15人程度のグループに分け、小グループでの活動を中心に学習プログラムを構成している。小グループでの活動としては、①実習での経験をもとに作成した「場面記

録」を用いての保育の評価と、学びを深めるための保育カンファレンス、②各学生の弱点としている領域の学び直しと補強のため「弱点克服講座」、を行っている。また全体で行われる活動としては、①履修カルテの作成と振り返りを通しての自己評価、②現職保育者からの講話、③保育現場で行われるプログラムの体験的な学び、などがあり、上記から15回の授業を構成している。

2. その他の取組

(1) フレッシュアップセミナー

2年間の学修を、よりスムーズに進めるために必要な知識や態度を育てるための科目として配置している。保育の現場を理解するための調査や討論の活動も取り込んでいる。

(2) キャリアデザイン

『保育』という仕事の理解、そして自己理解を深めるための演習や、マナーなどのスキルを身につけながら、どのような保育現場が自分にふさわしいかを考察することを目的としている。

(3) 専門研究Ⅰ・Ⅱ（ピーク制の導入）

個性ある保育者の養成をめざして①音楽表現、②造形表現、③健康・遊び・体育、④保育教育実践、⑤子育て支援の5つのコースを設け、専任教員全員が10名から20名の学生を受け持ち、ゼミ形式でそれぞれの専門性を深めるよう指導している。

(4) 個別実習（自主実習）

1年次においては、本実習までに保育現場を体験する機会として夏休みに最低3日間の実習体験を行うことを課している。1年次後の春休み以降は、実習経験をさらに重ねる機会として、また2年次後期を中心とした就職活動にむけて、学生が自らの力をより発揮しやすい保育現場について経験から学ぶ機会として、積極的に個別実習を行うよう勧めている。

(5) 就職指導

2年次の前期後期を通して、授業外で週1回就職指導の時間を設けている。1年次のフレッシュアップセミナー及びキャリアデザインを継続してより専門的に保育現場を知り、統合させ、自己分析を深め、保育の仕事に必要な知識やスキルを身につけることを目的としている。就職指導では、専任教員だけでなく県内の優秀な保育者や経営者等を招聘して指導に当たっている。

(6) 実習連絡協議会

学生の実習先となる施設の代表者を招いての連絡協議会を実施している。実習への準備をスムーズに行うため、学生が直接打ち合わせを行うとともに、大学側からの実習についての説明、教員との情報交換を行い、学生の実情や学科の取組、保育現場での課題等をそれぞれが把握し、実習や他の指導に生かしている。

(7) 就職懇談会

熊本県及び熊本市の保育団体との就職懇談会を実施している。保育の各団体の役員をお招きし、保育現場の状況を直接学生に伝えていただくとともに、学生からも質問ができる時間を設けている。

学生との懇談後には教職員との懇談会を実施し、学科の取組や学生の実情などを紹介するとともに、保育現場の動向や養成校の課題等について助言を得て、学生指導に生かしている。